

大学の顔としてのミュージアム

館長 横川公子



大学博物館の第一の目的・役割は、大学における高等教育と研究の成果を保存し活用・公開することである。一般的な博物館とは異なる、このような大学博物館の原則的な役割に基づき、資料発掘（や活用）について、以下のように考えている。

本学には膨大な独自の学術標本の蓄積がある。学内最大の標本蓄積装置として附属総合ミュージアムがあり、現在整理されたものとして 70,000 件余が確認される。が、これらは個別的な調査値の累積に過ぎず、背後にある全貌は、その 10 ～ 100 倍単位が見込まれるだろう。さらに、それらを把握しうる視座については、おいそれと見出しがたいといわねばならない。資料として教室や研究室あるいは事務部署で利用されているものについてははともかく、調査や研究が終わったとみなされる学術標本については、個々の管理単位でさえ把握しきれていないのが実情だろう。展示は氷山の一角に過ぎない。

学術標本には、自然史系の一次資料のみでなく、文化的・歴史的に価値づけられる物品が含まれる。文化史系の教育研究に資する一次資料や教育研究の現場で使われた様々な道具や器具類、さらに試作品や実験品、教員や学生の使用した什器や備品も視野に入ってくる。人文系で使われる書籍や文書などの史資料は、図書とみなされて学術標本の範疇から除外されるのが普通であるが、広義には学術標本に数えることができる。学術標本は、教育研究のために収集された各種の一次資料、またそれを実践する中で生成された副次的な資料、教

育研究の環境をかたちづくるのに必要とされる様々な物品が含まれる。要するに学術標本とは、学術的環境と直接・間接の関りを持つ「モノ」の総称であり、大学独自の色合の濃い資料である。

それでは、一般の博物館資料にない学術標本の特徴はどうなるか。

① 本学独自の教育研究活動を通じて蓄積されたものであるため、大学の学部学科の在り方に沿った学問の体制が内容と分類に反映される。

② 専門研究者が自ら収集し、標本化した資料であり、履歴をたどることが可能で、しかも学術的記載を伴うものが多い。

③ 教場で資料として使われる「参照標本群」がある。これらの系列的・体系的コレクションも学術標本である。

④ 学術研究の成果によっては、研究によって生成され蓄積された「モノ」に、背景となる時代を先導する発想や着想が生かされている。

現在、各学部・学科から発掘される学術標本が限定的であったにせよ、武庫川女子大学の過去・現在・未来の形成に直接・間接に寄与した歴史的な学術遺産が現にここにある、という意味がある。そして学術標本は、発掘の視座と場面により充実していく。我々は今、ここにあって歴史を作りつつあるのである。

そして大学ミュージアムは、大学の顔であり、大学の過去・現在・未来を紡ぐ場である。

博物館実習をおこないました

「学芸員」の資格を取得するためには、課程のなかで必要な単位を取得するのに加えて、実際の現場で実習をおこなう必要があります。当館では、本学で学芸員課程を履修している学生の実習先のひとつとして受け入れをおこなってます。今年度は、8月31日（月）～9月4日（金）までの5日間、実習をおこないました。

5日間の実習では、6名の学生が、ミュージアムの学芸員から掛軸や彫刻、染織品の取り扱い方や調書の取り方を学んだほか、所蔵資料（掛軸）の調査、秋季展の展示作業などに取り組みました。普段の講義とは違って、実際の学芸員の仕事の一部を体験できたことは、きっと学生たちにとって、学芸員の仕事の具体的なイメージをつかむことができたのではないかと思います。



当館は、学内の様々なご所属の先生方に、運営委員としてご尽力いただいています。そこでこのたび、ミュージアムの運営委員の先生方によるコラムがスタートしました！当館に関わる先生方の一面をご紹介します。

コラム vol.01

「最近の美術館・博物館について思うこと」

福井研一（附属中学・高校）

私は中学から美術部に入り高校でも迷うことなく美術部に入部し、大学も自然と芸大に進学し、今まで数多くの美術館や博物館へ行き、沢山の絵画や展示を見てきました。

私たちの住んでいるこの周辺は、大阪、京都、兵庫、奈良と歴史や文化に溢れた地域で大きな美術館や博物館がたくさんあり、私は兵庫県で生れて良かったと思っています。

今では各県に県立美術館は当たり前のようにあり、いろいろな展覧会が開催されている状況は嬉しいことではありますが、近ごろ思っている事を書いてみます。

最近、思うことは特に美術展の入館料がとにかく高くなったことです。ここ数年、ちょっとした有名な画家の巡回展では大人の入館料が2千円を超えている。高すぎではないか？いつの間にあれほど高価になってしまったのか？大学生の入館料も1700円とかとにかく高い。

大きな美術館は県立だったり国立だったり市立という公立である。国民の税金で運営されているのなら、もっと安く気軽に国民に観覧できるように還元しないといけないのではないのか？

また美術館の開館時間も午後5時で閉館するとかサービスが悪すぎる。平日の閉館が午後5時ではたいていの働いている人は平日に見に行くことが出来ないではないか？ヨーロッパの美術館では観光シーズンなら午後9時まで開館している場合が多い。仕事帰りでも美術館に行けるように、せめて金土日くらいは午後8時閉館とかにならないものだろうか？日本はこういうところはまだまだ遅れていると思う。

美術館は自分たちのいる地域の文化に誇りを持ち、多くの人たちに広めていく、という視点をもっと持たないといけないだろう。

また、美術館は有名な作家の作品を展示するだけでなく、美術館が地域の子供たちが絵画と気軽に接したり制作したりする拠点になるという意識をもっと持たないといけないだろう。微力ながら自分も出来ることからしていきたいと思う。

資料の燻蒸をおこないました

ミュージアムに求められる役割のひとつに、資料を適切な環境で保存し、より良い状態で後世に伝えていくことがあります。そのため当館では、年に1度、「燻蒸」という作業を実施しています。今年も8月の夏季休暇期間を利用して作業をおこないました。

現在実施している燻蒸作業は、特設のテントのなかに所蔵資料を搬入し、そこに二酸化炭素を充満させることで、資料に付着している（かもしれない）虫や虫の卵を殺すものです。6万点以上ある所蔵資料のなかから、登録有形民俗文化財に登録されているものを中心に650点以上の資料を燻蒸しました。燻蒸をおこなえば未来永劫虫害がないというわけではなく、保存環境を良くしないかぎり虫害は繰り返されてしまいます。それでも、虫害の影響を一度リセットできることは、資料にとってとても良い機会になります。今後も保存環境の整備とともに資料を良い状態で維持していくことに取り組んでいきたいと思ひます。



秋季展

「生活資料が語るあの日あのとき —近代日本における戦争と平和—」が スタートしました

会期 9月25日(金)
～12月2日(水)



このたびの展覧会では、当館所蔵の近現代のモノ資料に戦争と平和に関するモチーフや表現が多いことに着目し、生活のなかの「モノ」を対象として、そこに入り込んでいた「戦争」について取り上げました。具体的な展示資料には、教科書、雑誌、マンガ、マッチラベル、キモノ…など身近なモノが挙げられます。それらの資料からは、身近な生活資料のなかに戦争に関連

するモチーフが含まれていることに気が付きます。

また、昭和14年(1939)に設立した武庫川高等女学校は、戦時中の国の要請に応え、奉安殿の設置や報国隊の活動など、様々な取り組みをおこなっていました。その実状は、本学の公文書や高等女学校卒業生からの寄贈品にみることができます。そして戦後、武庫川学院が取り組んだ平和教育活動についても取り上げます。戦後80年・昭和100年が過ぎたいま、改めて、モノ資料が語る戦争と平和について調査したその成果をご紹介します。



学術研究交流館【IR館】はM.I.C.カードでご入館いただけます。本学教職員・学生の方は、所定の場所にカードをかざしてご入館ください。一般の方は、玄関にあるインターフォンを押してください。

ミュージアム主催の
講演会・イベントのご案内

秋季展関連講演会は、
講演会終了後に
展示をご覧いただけます。



【秋季展関連講演会 @学術研究交流館（IR 館）101 教室】

●10月3日（土） 13:20～15:00（開場 13:00）

「生活資料が語るあの日あのとき」

- ・「英雄譚『桃太郎』と『爆弾三勇士』が戦争に果たした役割
／大高幸（放送大学客員准教授／当館共同研究員）
- ・「生活美学の視点からのプロパガンダと娯楽の関係の考察」／森田雅子（当館副館長）
- ・「モノ資料が語るあの日あのとき」／横川公子（当館館長）



申込はこちらから↑

【「学芸員の仕事とは？」連続講演会 @MM 館メディアホール】

●10月19日（月） 13:00～14:30（開場 12:40）

「学芸員の仕事論：公立館・大学博物館－30 余年の経験を通して－」
／船越幹央 氏（大阪大学総合学術博物館 副館長）

●11月16日（月） 13:00～14:30（開場 12:40）

「生誕 100 年：森英恵 ヴァイタルタイプが出来るまで－学芸員の仕事－」
／廣田理沙 氏（島根県立石見美術館 専門学芸員／当館共同研究員）

●12月7日（月） 13:00～14:30（開場 12:40）

「自然史系学芸員の仕事：さく葉標本を管理して活用する」
／横川昌史 氏（大阪市立自然史博物館 主任学芸員）



申込はこちらから↑

【プレ公開講座・第2回研究交流会@学術研究交流館（IR 館）101 教室】

●11月14日（土）

13:30～15:00 研究交流会

詳細が決まり次第
HP・infoMUSEs で
お知らせいたします

